

## 高速走行時の運転者の意識と運転実態に関する調査研究（昭和 58 年度）

高速道路が国民生活に及ぼす影響は非常に大きくなっているが、高速道路を利用する運転者や企業等の意識等は十分に把握されておらず、これらが高速道路管理面に十分に反映されているとはいえない。このため、今後の高速道路走行に関する運転者教育など安全対策のための資料を得ることを目的として、高速道路利用者の意識や走行実態等のアンケート調査・分析を行った。

- ① 高速道路を利用するドライバー（男性約 2,800 人、女性 180 人）に対するアンケート及び約 300 ヶ所の運輸事業所に対する実態調査を行った。その結果、高速道路を毎日運転する割合は、大型トラックで 51.1%、乗用車では男性 9.1%、女性 7.9%である。高速道路は一般道路に比べて安全度が高いという意識は高く、その理由として若年層は「歩行者や自転車のないこと」をあげ、加齢と共に「対向分離」が多くなる。
- ② 故障時による路肩駐車は、男性ドライバーの 18.2%が体験し、特に大型トラックではその 46.1%、普通トラックでは 30.1%が体験ありとしている。路肩休憩体験の比率はトラックでも 9.6%にとどまっているが、バス停での休憩は大型トラックで 26.4%、普通トラックで 19.8%、二輪で 10.9%と高い。
- ③ ニアミス体験の理由としては、自分では「居眠り」が多いほか（図）、相手の車線変更、割り込みが多い。また、二輪では「幅よせ」が多い。危険行為については「車間をつめて走る」「ジグザグ運転」「スピードの高いこと」、二輪では「後方無視」の割合が高い。
- ④ 車間距離の決め方は「目測」が男性で 42.5%、「安全と決めた距離」が 26.8%である。ほぼ 100%が「車間距離表示用マーカ―」を知っており、男性の 82%、女性の 81%が利用している。通常の走行速度は、若い年齢層（19 歳代）で平均 105km/時程度で加齢とともに低くなる。今までの体験速度は、男性の平均で 128km/時、概ね走行速度の 20%増であるが、二輪では 50%増と高い。車間距離の平均は 100km/時程度まででは 80~90m、二輪では 66m となっているが、それより速度が高くなると、意識されている車間距離を短くとる傾向がみられる。
- ⑤ 運転中の不安感については、普通トラックと二輪で 60%以上が「居眠り」をあげ、また、二輪では 70%以上が「横風」への不安を抱いている。その他、二輪では「前車の急な車線変更」「他車の積荷の落下」、女性では「本線への合流」、「トンネルでの事故」の不安感が高い。
- ⑥ 印象に残る広告媒体は男性で「電光掲示板」が 41.6%、「横断橋のタレ幕」が 29.5%である。「渋滞中この先出よ」の表示に従うのは男性で 82.3%と比較的高いが、トラックでは無視する率が高い。
- ⑦ 企業における利用実態として、通常業務での高速道路での利用は全体の 70%が制限していない。交替要員については、「出発から到着まで同じドライバーで運転する」割合が 72%である。運行基準図は 34%が作成している。疲労や眠くなったときの指導については、「次のエリアで休ませる」が圧倒的に高い。高速走行の安全指導の講習会は 72%が過去に実施している。過労運転の防止策は、「夜間や長距離運転の場合、時間的余裕をもたせる」が 67%に達する。

